

平成 30 年 7 月 2 日

学校法人 ぜんりょう学園
専門学校 北九州自動車大学校
校長 籠谷 正 則

「自己評価及び学校関係者評価結果 平成 29 年度版」 報告

学校法人 ぜんりょう学園 専門学校 北九州自動車大学校は、平成 29 年度における自己点検・自己評価を実施したのち、学校関係者評価委員会を平成 30 年 6 月 8 日に開催し、各評価項目についてまとめた結果を学校教育法、同法施行規則並びに専修学校設置基準における学校評価に関する規程に基づき「自己評価及び学校関係者評価結果 平成 29 年度版」として、ここに公開いたします。

学校関係者評価委員会のご意見を真摯に受け止め、本校の教育と運営についてさらなる向上を目指し、教職員一同、努力して参ります。今後とも一層のご支援、ご協力を賜りますようどうぞよろしくお願い申し上げます。

学校関係者評価委員名簿

氏 名	所 属 先
椛島 大希	一般社団法人福岡県自動車整備振興会 北九州事務所所長
金丸 孝弘	株式会社ワークホイール 福岡営業所
成重 哲	株式会社スズキ自販福岡 小倉営業所
宮本 達也	株式会社グリーンライン保険サービス
穂枝 浩志	本校同窓会副会長

(1) 教育理念・目標・人材育成像

評価項目	具体的取組	自己評価	課題と改善策	評価委員会の意見
1-1 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	理念は学園創立者の建学の精神「自主独立と新開拓者精神（ノヴァフロンティア）」として示され、この精神に沿って、目標・育成人材像は、自動車整備に関する学術理論実施技術を指導教育し、人類社会の福祉に貢献する有能な技術者を育成することと明確に学則に定め、教職員及び学生に周知徹底している。	4	建学の精神の解説文を学生便覧に掲載し、学生に周知徹底を図りたい。また、ディプロマポリシーを作成し、育成人材像を明確化する予定である。	
1-2 学校における職業教育の特色は何か	実践的な自動車整備士を育成するため、実務経験豊富な多くの教員を配し、また、企業と連携した実習・演習を実施している。さらに、広い視野を持った自動車整備士を育成するため、ビジネスマナーやコミュニケーション能力を高めるソーシャル検定（JAMCA）、運行管理者や福祉車両取扱士などの資格取得に取り組んでいる。	4	企業と連携した実習・演習をさらに強化していきたい。また、社会人となるために必要な「社会人基礎力」の養成にも努めたい。	
1-3 社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	高校生から見た魅力ある学校づくりと、業界で必要とされる人材を育成するため、カリキュラムとそのシラバス作成について社会のニーズを取り入れ、毎年確実に実行している。	4	魅力ある教育と業界で必要とされる技術者養成をさらに推し進めるため、カリキュラムを総合的に見直したい。	カリキュラムの見直しをした際にはしっかりそれを各企業と共有することが大事だと思う。

1-4 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	学校の教育目標や育成人材像については学生便覧に明示し、学生や保護者に周知している。また、学校の特色や将来構想などについては学校新聞や本校ホームページに公開している。	4	現在の取組を継続する。	
1-5 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	年に2回、定期的に自動車関連企業からのニーズをヒヤリングし、その結果をシラバスに反映させることにより、育成人材像を改善している。また、インターンシップや企業と連携した実習・演習を実施することにより、教員及び学生は業界のニーズを肌で感じ取っている。	4	年々企業との連携が密になっており、様々な機会を設け成果ある教育活動に発展させたい。一級4年生にはインターンシップを実施しているが、さらに、1、2年生の希望者についてもインターンシップを実施し、実践教育から企業のニーズを汲み取る取組をしたい。	インターンシップは学生と企業のお互いにプラスになる面が多いと思うので、取組を進めていただきたい。

自己評価点数 4：適切、 3：ほぼ適切、 2：やや不適切、 1：不適切

課題と今後に向けての考え

- ・ 建学の精神の解説文を学生便覧に掲載し、学生に周知徹底を図りたい。また、ディプロマポリシーを作成し、育成人材像を明確化する予定である。
- ・ 将来構想については、年度ごとの計画が立案遂行され、教職員には内容の周知を行っているが、今後はその公開方法も検討する。
- ・ 教育目標や育成人材像は、社会のニーズとともに大きく変化していくと考えられる。自動車のAI時代に向けた整備士を養成する教育機関として、監督官庁や整備業界の動向を注視しながらカリキュラムの改正を検討したい。

(2) 学校運営

評価項目	具体的取組	自己評価	課題と改善策	評価委員会の意見
2-1 目的等に沿った運営方針が策定されているか	学校の目的、目標に基づいた学校運営方針は明確である。教務課・学生課・学事課・進路支援センターを含め、毎年度初めに目標が作成され、全教職員に認識されると同時に活動の基軸となっている。運用についてもスムーズに展開できている。	4	今後も取組を継続するが、環境の急変な対応については、速やかに行動したい。また、問題の共有化を推進する。	
2-2 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	運営方針に沿った事業計画を策定し、実行のための予算を作成している。	4	今後も取組を継続するが、さらに、実習等で必要な機器・備品についても、中・長期的に各実習担当者と検討したい。	
2-3 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか	本校を含む学園全体の運営組織は、変更がある度に校務分掌一覧を配布している。意思決定機能は、学園では寄付行為により、また、学校では学則により明確化されている。学校運営に関する問題点とその改善策は、今年度設置した改革委員会（校長、副校長、学務部長で構成）で議論がなされ、定例の教員会議で諮られ、実行に移している。	3	学科の独自性や責任体制が明確になったことによる各学科の連携が不足している。各学科に責任者（学科長）を配置することで解消したい。	連携不足解消、また情報の水平展開実施に向け良い取り組みと思う。
2-4 人事、給与に関する規程は整備されているか	人事は就業規則により、給与は教職員給与規程、退職手当給与規程等により整備されている。	4	法令改定や社会情勢の変化等を踏まえ、改善が必要な点がないか確認を行い、現状に即した規程となっているか今後も見直しを行っていく。	

2-5 教務・財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか	教務課、募集戦略室、進路支援センターなどの組織は整備され、それぞれの責任者が各部署とも連絡を取りながら意思決定を図っている。	4	現在の取組を継続する。	
2-6 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	業界への就職に関しては「就職斡旋規程」を、地域社会に対しては「学生心得」を遵守するよう学生を指導している。	4	現在の取組を継続する。	
2-7 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	ホームページに公開している。また、日々のトピックスもホームページ、SNS や YouTube で公開し、周知している。	4	ホームページなどへの情報をさらにタイムリーにアップしたい。	Facebook のページは非常に良いと思う。
2-8 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	成績処理は本校独自にシステムを構築し、迅速かつ正確に行われている。また、出席管理についてもシステム化により、業務の効率化が図られている。このシステムにより教員間の情報共有が可能となった。	4	今後とも、現状に即したシステムの効率化を図って行きたい。	

自己評価点数 4：適切、 3：ほぼ適切、 2：やや不適切、 1：不適切

課題と今後に向けての考え

- ・教育の原点である教職員の向上心やモチベーションの勉強会を設け、個々は勿論学校全体としての成長を促して行きたい。
- ・来年度留学生を受け入れる予定であり、奨学生事務や各種証明書の発行も含め学生の利便性を高めるために、事務員の加配を検討したい。
- ・各学科に責任者（学科長）を配置し、責任者が中心となって社会のニーズに合った実習等での必要な機器・備品を中・長期的に検討して行きたい。
- ・情報システム・管理システム等の利便性が高まるにつれ、業務の効率化を図ることができる。従って、各システムの見直しをさらに進めたい。また、そのための人材を育成して行きたい。
- ・ホームページを活用し、日頃の教育活動に関する情報の配信をタイムリーにアップすることを心掛けたい。そのための人材育成を図りたい。

(3) 教育活動

評価項目	具体的取組	自己評価	課題と改善策	評価委員会の意見
3-1 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	教育課程の編成については、教育理念を踏まえ国土交通省の規程に沿って編成されている。また、実施方針等は活性化委員会で策定し、教員会議に諮られている。さらに、「教育課程編成に関する規程」を定め、教育課程編成委員会の意見を反映させている。	4	定期的に見直しを行っており、特に課題を感じていない。	
3-2 教育理念、育人材像や業界ニーズを踏まえたカリキュラムを編成し、各科目のシラバスの中で学習時間の確保を明確にしている。なお、定められた時間内では学習到達目標に達しない学生については、補講を実施しレベル向上に努めている。	教育理念、育人材像や業界ニーズを踏まえたカリキュラムを編成し、各科目のシラバスの中で学習時間の確保を明確にしている。なお、定められた時間内では学習到達目標に達しない学生については、補講を実施しレベル向上に努めている。	4	定められた時間内で学生全員が教育目標に到達するよう授業内容を工夫・改善していく必要がある。また、シラバスの中で教育到達レベルを明確化したい。	
3-3 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	各学科の目標達成に向けたカリキュラムは、国土交通省指定の教育科目を踏まえて体系的に構成されている。また、定期的カリキュラムを見直し、業界との格差が発生しないよう努めている。	4	定期的に見直しを行っており、特に課題を感じていない。	
3-4 キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	業界と連携した実習やインターンシップを実施し、キャリアアップに努めている。教育課程編成委員会や学校関係者評価委員会での意見についても導入している。さらに、職業人としての能力を身に付けることを教育目標の一つとし、クラス担任を中心に学生指導を徹底している。	4	現在の取組を継続する。	

3-5 関連分野の企業・関係施設等や業界団体との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	企業及び業界団体から委員を迎えて教育課程編成委員会を年2回開催している。その中で、カリキュラムを見直し、シラバスに反映している。	4	現在の取組を継続する。	
3-6 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか	1級4年生時にインターンシップを実施し、毎日、レポート提出を義務付けている。また、担当教員は定期的にインターン先を訪問し、学生を指導している。企業と連携し、1年生に対しては自動車点検実習、2年生に対しては故障診断実習を実施しており、シラバスにも明記している。	4	企業側も本校の自動車整備教育に対して非常に協力的であり、今後もこの体制をさらに強化して行きたい。	
3-7 授業評価の実施・評価体制はあるか	学生による授業評価は、前期と後期に年2回実施している。また、評価の低い授業担当者には校長が個人面談を実施し、授業のアドバイスをを行うことで改善を図っている。	4	アンケート結果を教員個人の目標に結び付け指導しているが、教員間に差がある。これを是正するため、評価の情報を教員間で共有することで、是正を図って行きたい。	アンケート結果の評価を上げることが主な目標にならないよう注意する必要がある。
3-8 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	業界による外部評価は、学校関係者評価委員会により行われている。	4	学校関係者評価委員会にて評価をいただき、改善点を取り入れているので、特に課題を感じていない。	

3-9 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は、学則や教務規程によって明確に定めている。学生には学則及びその他関連規程を掲載した学生便覧を全員に配布し、周知徹底している。	4	実習の成績評価は「実習心得」に明記しているが、教務規程の中に統合する必要がある。	
3-10 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	自動車整備士資格取得に向けたカリキュラムを編成している。その他、就職の際取得しておけば有利な資格については、夏季・春季休暇等を利用し、資格取得のサポートを行っている。必須資格と選択資格に分け、学生の能力・ニーズにより選択できる体制をとっている。	4	資格合格率、取得率とも高い。就職する際に必要な資格であり、学生の多くはモチベーションを維持することができている。資格取得をより確実にするため、教授法の改善も図っていく。	
3-11 人材育成目標の達成に向け授業を行うことのできる要件を備えた教員を確保しているか	第一種養成施設の指定基準に準拠するため、資格や経験年数及び学歴等を満たした教員を確保している。また、一級未取得者であっても、上質な技術、高度専門知識資格を満たしている教員を確保している。	4	教員の一級自動車整備士の取得者は確実に増加して来ている。今後とも、朝礼や教員会議等において啓発を行い、教員の意識改革を図っていく。	一級の資格だけではなく、教員は十分に持っている知識と経験を生かした教育に取り組んでほしい。
3-12 関連分野における業界等との連携において、優れた教員（本務・兼務含む）を確保しているか	新規採用を行う際、3-11 を満足する教員を関連分野の業界から紹介いただき、人間性や教育に対する意欲などを面接で確認することで、若くて優れた教員を確保している。	4	学生に対する専任教員一人当たりに対する学生数は約 13 名であり、学生に対する教育指導体制は充実しているが、高校へのガイダンスや模擬授業など学生募集に対する業務も若手の教員が経験を積んで行けるよう環境を整えたい。	

3-13 関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成などの資質向上のための取組が行われているか	整備振興会、マツダ、バンザイ、JAMCA などによる新技術研修は、毎年、順次教員が受講している。教員の指導力育成に関する研修は、JAMCA が主催して行われており、順次教員が参加している。	3	教員の指導力育成に関する講習会を学内でも受講できるように検討する。	
3-14 職員の能力開発のための研修等が行われているか	講師を招き、事務職員に対して学生募集に関する戦略について、定期的に指導をお願いしている。留学生や日本学生支援機構奨学金に関する講習会には必ず参加している。	3	事務職員に求める能力は多岐に亘る。今後とも、能力開発に関する研修は積極的に参加させたい。	

自己評価点数 4：適切、 3：ほぼ適切、 2：やや不適切、 1：不適切

課題と今後に向けての考え

- ・ 学科の修業年限に対応した時間の確保は明確にされているが、定められた時間内で学生全員が教育目標に到達するよう授業内容を工夫・改善していく必要がある。
- ・ 学生からの授業評価アンケートを科目ごとに実施し、教員の自己分析に利用している。また、授業評価のアンケート結果は教員個人の目標に結び付け指導しているが、教員間に差がある。これを是正するため、その情報を教員間で共有するようにしたい。
- ・ 教員自身の一級自動車整備士の取得率が100%となるよう教員の意識改革を図って行く。
- ・ 教員は授業を担当するだけでなく、高校へのガイダンスや模擬授業など学生募集に関することも業務であることの自覚を促して行く。
- ・ 事務職員に求める能力は多岐に亘る。今後とも、能力開発に関する研修は積極的に参加させたい。
- ・ 企業側からの講師派遣実習が、学生・教職員に良い影響を与えている。今後も企業側とさらに連携して充実した教育活動の推進を図りたい。

(4) 教育成果

評価項目	具体的取組	自己評価	課題と改善策	評価委員会の意見
4-1 就職率の向上が図られているか	学校に求職希望を提示した学生を対象に就職斡旋を行っている。面接指導や書類作成に関する指導はクラス担任がきめ細かく行い、就職率の向上を図っている。社会教養学を導入し、面接指導や書類作成の講義も実施している。	4	就職後の離職率を低減するため、学生に現在の社会情勢を理解させ、自分に合った企業選びの指導をさらに強化する。	
4-2 資格取得率の向上が図られているか	自動車整備士の資格取得については 100%合格を目指し、11月から放課後受験予定者全員に対して全教員が「居残り対策」を実施している。クラス編成は習熟度別に4クラスとし、定期的に筆記試験を実施し、クラスを入れ替えている。 また、就職先で役立つ各種資格を学生に明示し、学校が取りまとめて受験の申請を行うとともに受験対策として勉強会などを開催することにより、資格取得の向上を図っている。	4	二級自動車整備士の合格率は 100%であったが、一級のそれについては合格率アップを目指し、講習方法の改善に努めたい。	二級が不合格で就職したのち、二級を取得することは非常に難しい。一級の合格率については、北自大は他校と比較しても高い方だと思う。今後も合格率を上げていってほしい。

4-3 退学率の低減が図られているか	退学の理由の多くは、欠席しがちになり学業不振に陥り退学している。従って、欠席する場合はクラス担任に理由を報告することを義務付け、欠席しないよう促している。成績不良の学生については、定期的にクラス担任が学生と面談する、場合によっては保護者も含めて面談し、勉学に対する意識向上や生活習慣などの改善をアドバイスしている。経済的な理由による場合は、日本学生支援機構の奨学金や企業奨学金を利用するよう勧めている。その他、進路のミスマッチングなどによる退学があるが、学校として、組織的、計画的に退学者の減少に努めている。	3	今年の退学率は、昨年と比較して改善が見られたが、学生と教員間の信頼関係をさらに構築して行くことで、退学率の低減を図りたい。また、社会的要因として、自動車整備士の社会的地位や自動車整備士資格取得の重要性の認知度が低いことが勉学を続ける上でネックになっていることも考えられ、大きな課題である。	
4-4 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	卒業生全員の活躍や評価を把握するのは難しいが、企業との情報交換によりそれらを把握するよう努めている。	3	卒業生の活躍を把握するためには、企業との連携を密にする機会を多くする必要がある。	同窓会に協力をお願いして、卒業生の活躍ぶりを情報収集してはどうか。
4-5 卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか	企業に対して卒業生の仕事ぶりや評価などについてヒヤリングを行い、仕事の内容やどのような能力を身につけておくべきかを授業の中で各教員が適宜学生に伝えている。また、1年生全員が授業の一環として4月に各企業を見学し、卒業後のキャリア形成の重要性を肌で感じさせている。	4	卒業生と接することにより、学校教育においてどのような能力を身につけておくべきだったかなどについて聞き取り調査を行う必要がある。	

自己評価点数 4：適切、 3：ほぼ適切、 2：やや不適切、 1：不適切

課題と今後に向けての考え

- ・就職率の向上は図られているが、就職後の離職率が増加している。企業から見た離職の原因などについて学生に対して講演をお願いし、離職率増加に歯止めをかけたい。
- ・自動車整備士の資格取得の必要性を学生に認識させ、さらなる指導方法の改善を図る必要がある。特に、二級に関しては全員取得を維持するように、一層の改善工夫が必要と考える。
- ・退学率低減については、ここ数年の大きな課題である。退学理由は様々であるが、欠席による勉強意欲の衰退と経済的事由が目立っている。自動車整備の社会的意義や楽しさを伝えながらも躰教育の両立を検討し、人材育成に努めることが必須課題である。

参考資料 平成 29 年度における退学率、自動車整備士合格率並びに就職率

・退学率

6.7% (28 年度 : 9.7%)

・自動車整備士合格率

一級 52.9% (28 年度 : 61%) 2 年次修了時に全員二級ガソリン、ジーゼル取得済

二級ガソリン 100% (28 年度 : 93%)

二級ジーゼル 89.8% (28 年度 : 90%)

・就職率

就職希望者に対して 100% (28 年度 : 100%)

(5) 学生支援

評価項目	具体的取組	自己評価	課題と改善策	評価委員会の意見
5-1 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	本校では「進路支援センター」を開設し、職業指導の基本方針、対策、情報収集、求人開拓のための企業訪問等を積極的に展開し、多数の求人獲得に努力している。その結果、集められた資料は就職を希望する本校学生ならば誰もが自由に閲覧でき、就職活動の指針として参考にしている。また、面接指導や書類作成に関してきめ細かく行うよう支援体制は整備されている。	4	クラスによって指導内容に差が生じないように担任への就職活動への取組指導に努めるとともに、直接の窓口になる教員が学生指導に当たっている。採用試験において特定の企業に希望が集中する傾向がないように、各企業が魅力をアピールできる態勢を作り、偏りなく就職できるように努めている。	
5-2 学生相談に関する体制は整備されているか	学生からの相談は、主にクラス担任が対応する。また、セクハラに関する相談も女性教職員が担当し、気軽に相談できる窓口も用意され、女性教職員採用で女子学生の相談体制も整っている。	4	学生の相談体制については、相談内容によっては単独よりも複数の教職員が関わった方が問題のとらえ方が深く適切な場合もあるため、教職員間の情報共有を密にする。特に、人間関係に関する案件については慎重に対応する必要がある。	
5-3 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	入学金の減免、授業料の減免、日本学生支援機構等の奨学金制度、企業奨学金制度、学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備され、有効に機能している。	4	アルバイトに従事する時間を少なくし、勉学に励める時間を多くするため、奨学金の利用を勧めている。しかし、夜間のアルバイトによる遅刻・欠席の増加、退学など問題の全面解決には至っていない。	

5-4 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	年に一回の健康診断を行い、学生の健康管理は適切に実施されている。異常のある学生に対しては再診することを指導している。	4	現在の取組を継続する。	
5-5 課外活動に対する支援体制は整備されているか	課外活動は、授業時間数が多い中では、十分に活動できているとは言えない。しかし、H29年度からエコランについては課外活動として開始し、学校として場所と予算を提供するなど支援体制を整えている。また、顧問である教員の負担は大きい、積極的な活動支援を行っている。	3	課外活動は同好会顧問のボランティア精神によるところが大きいので、今後は顧問への支援体制を検討したい。	私もソーラーカーに参加させていただいたが、とても良い経験になり、そこから学んだことも多かった。授業とは違い自分で考えることも多々あるので、人材育成にもとても良いと思う。
5-6 学生の生活環境への支援は行われているか	生活環境改善の一環として、遠隔地出身者について指定寮を優先的に紹介し入寮させており、支援は行われている。	4	近年、指定寮の入居者は減少しアパートでの一人暮らしが増加しているので、規則正しい生活が送れるようクラス担任を中心に指導體制を整えたい。	
5-7 保護者と適切に連携しているか	クラス担任と保護者との懇談や個別面談は、年1回全学年保護者会を実施している。また、中間と期末の試験結果を保護者に郵送し、保護者からも学生の生活環境の改善指導をお願いしている。さらに、必要に応じて「電話連絡」により学生の状況を保護者に報告するなど、保護者と学校が情報共有することに努めている。	4	可能な範囲において十分な連携が図られており、特に課題を感じていない。	

5-8 卒業生への支援体制はあるか	卒業後、数年経った離職者に対する就職支援を準備しており、利用者は増加する傾向にある。定期的に同窓会役員会を実施しており、総会の案内を行っている。また、卒業後の状況についてはインターンシップの訪問にからめて確認し、フォローアップに努めている。さらに、卒業生への活動報告や連絡事項は、本校ホームページ内に開設した同窓会コーナーより発信している。	4	現在の取組を継続する。	
5-9 社会のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	「進路支援センター」を中心に企業ニーズの聞き取りを行い、それをカリキュラムに反映させている。また、職業実践専門課程として企業に授業を実施していただき、企業ニーズを直接学生に伝える場も用意している。	4	企業が気軽に企業ニーズを発することができる体制を検討する。また、集められた企業ニーズをいかに授業に取り込んでいくかの工夫をさらに積極的に検討する。	“気軽に”という所がキーワードかと思う。是非とも構築に向けて尽力いただきたい。
5-10 高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	高校に出向いて、自動車整備士の仕事や整備士業界の動向を紹介している。また、自動車整備の模擬授業も展開している。	4	専門学校が高校生に対して職業教育を実施することを高校側が望むような内容を検討する。	

自己評価点数 4：適切、 3：ほぼ適切、 2：やや不適切、 1：不適切

課題と今後に向けての考え

- ・課外活動は、時間的余裕もなく、学生自ら課外活動を行いたいとの要望がほとんど挙がらないことから、実質的にはエコランのみが活動している。学生フォーミュラ参戦に向けての取組は、現在、一級自動車整備科の教員が中心となり授業の一環として準備を行っているが、放課後にも学生が中心となって取り組める環境整備を検討したい。
- ・卒業生支援については、同窓会活動の充実が必要であり、本校ホームページに同窓会ページを作り運用しているが、さらに、Facebook などを活用して積極的に活動を推進して行きたい。
- ・社会のニーズを踏まえた教育環境を整備するため、企業が気軽に企業ニーズを発することができる体制を検討する。また、集められた企業ニーズをいかに授業に取り込んで行くかの工夫をさらに積極的に検討する。

(6) 教育環境

評価項目	具体的取組	自己評価	課題と改善策	評価委員会の意見
6-1 施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	施設・設備は、第一種養成施設の指定基準を満たし、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されている。教育用機器・教材に関しては、実習計画に沿って年度毎に計画的に購入しており、良い教育環境を維持している。また、企業からの教材車両等の提供が増加している。	4	現在の取組を継続する。	Facebook を見ている企業から提供された教材車の充実ぶりに驚かされる。ただ、基礎を勉強する上では昔ながらの車の方が分かり易い部分もあるので、そういった車を残すことも大事だと思う。
6-2 学外実習・インターンシップ、海外研修について十分な教育体制を整備しているか	一級課程のインターンシップは、第一種養成施設指定基準として明確に定められており、確実な成果が上げられている。二輪自動車整備士コースは、学外実習として自動車学校へ行き、二輪車の整備・点検を行っている。海外研修は現在実施していないが、東京モーターショーと東京モーターサイクルショー見学は学科別に実施している。	4	二級課程のインターンシップはカリキュラムの中に取り込まれていない。しかし、キャリア教育の一環として実施することの意義は大きいと考えられる。従って、希望者に夏休みを利用したインターンシップの実施について、企業に協力を求めながらそのシステム化を検討したい。海外研修は、H30 年度入学予定者が2年次になるとき実施を検討したい。目的は、海外の自動車産業の動向を視察するとともに異文化への理解と視野の拡大を養うこととする。	

6-3 防災に対する体制は整備されているか	災害時の連絡体制については、緊急連絡放送や避難経路・避難場所を各教室に掲示することで対応している。緊急時の連絡体制は学生にも周知しており、また、消防署と連携し学園全体で訓練を実施している。	4	災害発生時の具体的な行動基準を定めた災害対応マニュアルを作成する必要がある。	
-----------------------	--	---	--	--

自己評価点数 4：適切、 3：ほぼ適切、 2：やや不適切、 1：不適切

課題と今後に向けての考え

- ・企業からの車両提供が増えており、これらの教材を有効に活用できるよう教育内容の見直しを検討中である。
- ・二級課程のインターンシップはカリキュラムの中に取り込まれていないが、キャリア教育の一環として実施することの意義は大きい。できれば希望者に夏休みを利用したインターンシップの実施について検討したい。
- ・海外研修は、海外の自動車産業の動向を視察するとともに異文化への理解と視野の拡大を養うことを目的に、H30年度入学予定者が2年次になるとき実施を検討したい。
- ・防災に対する体制は、消防署立会いのもと学園全体で実施しているが、災害発生時の具体的な行動基準を定めた災害対応マニュアルを作成する必要がある。

(7) 学生の受入れ募集

評価項目	具体的な取組	自己評価	課題と改善策	評価委員会の意見
7-1 学生募集活動は、適正に行われているか	H29年度より「募集戦略室」を立ち上げ、高校への募集対策、インターネットを活用した広報活動、留学生受入れ、施設設備の充実、現状分析などの9分科会を設置し、学生募集計画を立案し、従来から存在している各制度の見直しを行うなど環境の変化に適応しながら状況を分析し、学生募集活動は適正に行っている。	3	本校ではオープンキャンパス（OC）に参加した高校生が受験するケースが多いので、OCにおいて本校の魅力や自動車整備士の社会的意義などを伝えられるよう今以上に工夫したい。県内広報活動の展開に加え、県外にも積極的に活動したい。一級や二輪コースに対する学生募集も課題である。また、留学生の受入についても検討したい。ただし、入学予定者数の10%以内とする。卒業生の活躍をホームページで公表し、同窓会などを通じて志願者を拡大する。	
7-2 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	教育成果である資格取得状況や就職状況は、志願者が専門学校を選択する上で大変重要な判断材料であるため、教職員が志願者や各高等学校でガイダンスを実施する際に正確に伝えている。また、このことは、ホームページでも情報を公開している。	4	教員は授業の合間をぬって高校へのガイダンスを行っているが、一部の教員にその負担が集中している。今後は、他の教員もガイダンスに参加できるように養成して行く必要がある。	

7-3 学納金は妥当なものとなっているか	教育内容や施設・設備の充実度など他校の状況等を勘案して学納金額の見直しを行っており、学納金は妥当なものとなっている。	4	現状を維持する。	
----------------------	--	---	----------	--

自己評価点数 4：適切、 3：ほぼ適切、 2：やや不適切、 1：不適切

課題と今後に向けての考え

- ・学生募集については、厳しい状況にある。福岡県専修学校各種学校協会や高等学校進路指導研究会による取り決め事項等を遵守した上で、志願者が適切な進路選択が行えるよう、パンフレットや進路情報企画への掲載、ホームページでの情報公開、オープンキャンパスの開催と内容の工夫、高校ガイダンスへの教職員派遣などにより、さらに広く情報提供を行っていく必要がある。
- ・自動車は国の基幹産業であり、その安全と安心を確保するためには自動車整備士の存在は不可欠であるが、近年慢性的に整備士は不足している。整備士の不足をアピールするとともに、先進技術に対応するメカニックの重要性を強くアピールし、積極的な募集活動を行って行きたい。
- ・ここ数年の学生募集の結果は、18歳人口の減少、若者の車離れ、高校生の就職への好況などが主な原因なのか、満足した数字を残せていない。本校の魅力を構築し、入学者減を解消して行くことが本校の最大の課題である。
- ・留学生の受入は、入学予定者数の10%以内とする方向で検討したい。
- ・一部の教員に高校へのガイダンスが集中しているので、できるだけ多くの教員がガイダンスに行けるように養成して行く必要がある。

(8) 財 務

評価項目	具 体 的 取 組	自己評価	課 題 と 改 善 策	評価委員会の意見
8-1 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	財務基盤については、一切の負債を抱えておらず、現在のところ安定しているといえる。しかし、学生からの学納金で学校運営経費が賄われておらず、募集戦略室を設置し、入学者増の策を色々な角度から検討中である。	3	18歳人口の減少や高校生就職率のアップに伴う入学者数の減少、高い退学率の影響が大きく、教職員の人件費や経費削減など改善が急がれる。	教職員の人件費削減については、負担増、モチベーション低下につながるよう慎重に考える必要があると思う。
8-2 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	毎年度3月までには次年度予算を立て、収支計画を行っている。収入に即した支出計画となるよう節約に努め、長期的な事業計画については適切な支出を行っている。	3	学生募集、退学者減少への対策が急務であるが、収入減に対応して体制の見直しも視野に入れる必要がある。	
8-3 財務について会計監査が適正に行われているか	顧問税理士の指導の下、毎年定例の会計監査を適正に実施している。監査で指摘を受けた際には直ちに改善を行っている。	4	現在の取組を今後も継続する。	
8-4 財務情報公開の体制整備はできているか	毎年度の決算については、資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照法、財産目録などをホームページに公開している。	4	現在の取組を今後も継続する。	

自己評価点数 4：適切、 3：ほぼ適切、 2：やや不適切、 1：不適切

課題と今後に向けての考え

- ・学生募集の不調が財政を圧迫しているため、その改善が急務である。

(9) 法令等の遵守

評価項目	具体的取組	自己評価	課題と改善策	評価委員会の意見
9-1 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	法令や設置基準、監督官庁の許認可などの届出等は適正になされ、それらについては遵守と適正な運営がなされている。	4	法令順守の取組は信頼の基盤であるので、法人事務局や教育現場においても現在の取組を継続する。	
9-2 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	個人情報保護の規程を定め、個人情報が漏えいしないよう徹底管理している。個人データの電子記録の取り扱い、紙面による情報の漏えい防止等学校が有する個人情報の取得や利用は、適正な管理がなされている。	4	現在の取組を継続する。	
9-3 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	学校や各教員を対象に自己点検・評価を実施し、毎年見直しを行っている。その内容については学校関係者評価による検証も行っている。抽出された問題点は改善し、本校の健全性を保っている。授業アンケートは、教育の充実には不可欠な項目であり、積極的に実施している。	4	定期的を確認することにより、結果として自己点検・評価のレベルアップに繋がっているため、今後も継続し、精度を向上させていきたい。	
9-4 自己評価結果を公開しているか	自己点検・評価の公開については、ホームページに公開している。	4	現在の取組を継続する。	

自己評価点数 4：適切、 3：ほぼ適切、 2：やや不適切、 1：不適切

課題と今後に向けての考え

- ・自己点検・評価については毎年見直しを行い、結果として多くの項目の改善に繋がっているため、今後も現在の取組を継続する。
- ・学校関係者評価においても継続効果が表れており、良い方向に進んでいるため、今後も現在の取組を継続する。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	具体的取組	自己評価	課題と改善策	評価委員会の意見
10-1 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を積極的に実施しているか	学園祭を実施して幼稚園児・小学生の体験学習を積極的に受け入れている。本年度もサイエンスコーナーに多くの児童や生徒が参加した。また、英検、公文、自動車整備士国家試験などに教室を貸し出した。ハーレーショップやボッシュの講習会会場として貸し出した。	4	現在の取組を継続する。	Facebook などによく見かけるが、今色々な車を企業が持って来てくれていると思う。そういった時に学生だけでなく、地域住民の方もそういった車を見る機会を作ることはできないか？
10-2 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	年2回の献血活動を行っている。また、地域清掃活動には全学生が参加した。	3	地域要請に合ったボランティア活動を検討したい。	
10-3 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受諾等を積極的に実施しているか	本校への入学者増のために、自動車科の高校3年生向けに本校独自の自動車整備士3級支援を実施している。解答の分野別データ等を高校へフィードバックしている。また、福岡県自動車整備振興会の技術講習を北九州分教場として受諾している。	4	高校向け3級支援が入学者数にほとんど繋がっていなく、参加する高校も減少して来ているので、次年度以降の実施の有無を検討したい。	

自己評価点数 4：適切、 3：ほぼ適切、 2：やや不適切、 1：不適切

課題と今後に向けての考え

- ・学校の施設貸出等は地域や業界への貢献の一環として、今後も積極的に行っていく。

(11) 国際交流

評価項目	具体的取組	自己評価	課題と改善策	評価委員会の意見
<p>11-1 留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか</p>	<p>日本での自動車整備士の人材不足を補うことと、東南アジアにおける日本車の進出に伴い母国で必要とされる自動車整備士の養成を目指して、H30年度入試において、留学生の受入れを決定した。このため、募集戦略室に留学生受入れに関する分科会を設置し、主として、次の事項を決定した。</p> <p>(1) 受け入れ学科：二級自動車整備科(2年制) (2) 日本語能力：日本語能力試験 NI を N3 程度以上に変更する (3) 入学試験：書類審査・日本語試験・面接 (4) 受入れ人数：入学者数の 10%を限度とする</p> <p>また、優秀な留学生確保のため、近隣の日本語学校と提携を行い、N2以上の資格を取得している者については推薦により入学を許可するものとした。H30年度入学試験を実施した結果、9名の受験者を合格とした。今後の留学生受入れ戦略は、学生確保の手段とするのではなく、あくまで世界各国で通用する優秀な自動車整備士の育成に力点を置く。なお、本校学生の海外派遣は当分の間実施しない。</p>	<p>4</p>	<p>留学生を実際に受入れる次年度以降、日本語能力・勉学意欲・生活態度などを見ながら、今後の受入れについての更なる戦略を検討する。また、卒業後の受け入れ企業を調査する必要がある。</p>	<p>留学生の受入れは他の学生にとっても異文化への理解につながるなど良い影響が必ずあると思う。ただ、教職員についても、そういった留学生に対応できる人材が必ず必要になると思う。 今後の成果に期待する。</p>

<p>11-2 留学生の受入れ・派遣・在籍管理等において適切な体制が整備されているか</p>	<p>教員室内に国際交流室を設置し、留学生の責任者と担当職員を配置する予定である。この交流室での業務は、在留資格更新や資格外活動に関して適切な指導を実施するとともに毎日留学生が登校していることを確認するなど、適切な在籍管理の体制を整備する予定である。</p>	<p>4</p>	<p>次年度の経緯を見ながら、さらなる管理体制を強化する。</p>	
<p>11-3 留学生の学修・生活指導について学内に適切な体制が整備されているか</p>	<p>留学生の専門科目に対する学修は、教員全員が各担当科目の専門用語を中心に放課後補講を行うことによってある程度補完する予定である。入学金が納入された際、自動車に関する基本的な漢字を習得させるため、入学前トレーニングのテキストとその課題を配布し、解答を提出させ、添削を行う。3月中旬から4月上旬の入学式直前までの間、本校の学則や守るべきルールについて、入学前教育を実施する。留学生の生活指導は、クラス担任を始め、国際交流室の職員がその任に当たる予定である。下宿先は、本校の指定寮を職員が斡旋する予定である。さらに、留学生が快適で有意義な留学生活が送れるよう、学校内外の手続きや、留学生として知っておくべきこと、役立つ情報などを掲載した「留学生ハンドブック」を作成・配布する。なお、留学生に配布する書類についてはできるだけ漢字にルビを振る。</p>	<p>4</p>	<p>留学生受入れに対する環境整備は整いつつある。しかし、留学生の受入に伴って教員の負担が増加することになるが、役割を分担し負担軽減に努めたい。</p>	

11-4 学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	次年度から留学生を受け入れるため、学修成果が評価される取組は検討していない。	2	まずは、入学して来る学生のレベルと今後のスキルアップを見極めながら、どのような取組が国内外で評価される対象となり得るのかを検討したい。	
------------------------------	--	---	---	--

自己評価点数 4：適切、 3：ほぼ適切、 2：やや不適切、 1：不適切

課題と今後に向けての考え

- ・平成30年度より留学生を受け入れることを決定し、その受け入れ態勢も整いつつある。今後、受け入れた経験を踏まえながら教育体制や在籍管理を確立して行きたい。
- ・漢字圏ではない留学生の最大の課題は、漢字の読み書きである。このことについては、時間をかけて習得させる他ないものと考えている。
- ・労働人口の減少に伴い、今後は外国人労働者の採用が増加する見込みであり、留学生卒業後の採用を考えている企業の調査が必要である。